

2026年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
 代 表 者 名 代表取締役 須 藤 正 樹
 (コード番号：4 5 7 9)
 問 合 せ 先 執行役員経営管理部門担当 志 水 幹 憲
 (TEL. 052-446-6100)

通期連結業績予想と実績値との差異 及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2025年 2 月 14 日に公表いたしました2025年12月期（2025年 1 月 1 日～2025年12月31日）の通期連結業績予想と、本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、個別業績につきましても、本日公表の実績値と前期実績値との間に差異が生じたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想と実績値の差異について

① 2025 年 12 月期（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）の通期連結業績予想と実績値の差異

	連 結 売 上 高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純 利 益	1 株 当 たり 連 結 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 3,888	百万円 118	百万円 73	百万円 △71	円 銭 △3.25
実 績 値 （ B ）	3,979	483	437	273	11.53
増 減 額 （ B － A ）	91	365	364	344	
増 減 率 （ % ）	2.3	309.3	498.6	－	
（参考）前期連結実績 （2024 年 12 月期）	3,107	△213	△361	△495	△22.87

② 差異の理由

通期連結業績は、契約一時金およびマイルストーン収入等のその他収入が期首計画における想定を207百万円下回ったものの、tegoprazanおよびペット用医薬品に係る販売ロイヤルティ収入が堅調に推移し、期首計画比297百万円の増加となりました。この結果、連結売上高は期首計画比91百万円増加の3,979百万円と予想を上回りました。

さらに、委託試験の期ずれ等により研究開発費が期首計画を下回ったことに加え、費用管理の徹底による事業費用の圧縮がなされた結果、事業費用は期首計画比273百万円の減少の3,496百万円となりました。

上記の要因により、営業利益は期首計画比365百万円増加の483百万円および経常利益は期首計画比364百万円増加の437百万円と予想を大きく上回りました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益についても黒字転換し、期首計画比344百万円増加の273百万円と業績予想を上回る結果となりました。

2. 通期個別実績と前期実績値の差異について

① 2025年12月期（2025年1月1日～2025年12月31日）の通期個別実績と前期実績値の差異

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 期 実 績 （ A ）	百万円 2,496	百万円 322	百万円 196	百万円 56	円 銭 2.60
実 績 値 （ B ）	2,904	690	661	498	21.06
増 減 額 （ B － A ）	407	368	464	442	
増 減 率 （ ％ ）	16.3	114.1	236.3	787.5	

② 差異の理由

個別業績につきましては、tegoprazanおよびペット用医薬品に係るロイヤルティ収入の297百万円増加が事業収益を押し上げる要因となり、売上高が前期比407百万円増加の2,904百万円と前期実績を上回りました。

また、委託試験の期ずれ等により研究開発費が前期比で108百万円減少したものの、韓国権利審判等訴訟関連費用等の計上によりその他の販売費及び一般管理費等が総額で147百万円増加し、前期比39百万円増加の2,213百万円となりました。

上記の要因により、営業利益は、前期比368百万円増加の690百万円および経常利益は前期比464百万円増加の661百万円と大幅に改善しました。

その結果、当期純利益も前期比442百万円増加の498百万円と前期実績を大きく上回る水準となり、前期実績との差異が生じております。

以 上